事業番号　2023　－　金融　－　22　－　0032

	令和5年度行政事業レビューシート（金融庁）					
事業名	監査監督機関国際フォーラム（IFIAR）拠出金等			**担当部局庁**	総合政策局	**作成責任者**
事業開始年度	平成27年度	**事業終了（予定）年度**	終了予定なし	**担当課室**	IFIAR戦略企画本部IFIAR戦略企画室	園田　周
会計区分	一般会計					
根拠法令（具体的な条項も記載）	－			**関係する計画、通知等**	『令和2年度革新的事業活動に関する実行計画』（令和2年7月17日閣議決定） 『新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画・フォローアップ』（令和4年6月7日閣議決定）	
政策	－			主要経費	その他の事項経費	
施策	－					
政策体系・評価書URL	－					
事業の目的（5行程度以内）	監査監督機関国際フォーラム（IFIAR）は、グローバルに監査監督機能を向上させることにより、投資家を含む公益に資することをミッションとし、①当局間で知見を共有し加盟当局の能力向上を図るとともに、②協調して国際的に重要な監査関係者と対話を行うことで、グローバルな監査品質の向上、ひいては資本市場の公正性・透明性の向上に取り組んでいる。正副議長レベルでのIFIARを代表した活動や、その運営についての意思決定機関である代表理事会における議論のほか、具体的な取組はWG（ワーキンググループ）やTF（タスクフォース）が担っている。2017年に常設事務局を東京に開設した。 本事業は、IFIARの拠点として我が国の国際的なプレゼンスを高め、監査品質の維持・向上に向けた国際的な協力関係の構築・充実に資することを目的とする。					
現状・課題（5行程度以内）	事務局ホスト国として、事務局の設置・運営に伴う費用に関して一定の負担が求められており、このための拠出金を支出（金額については、IFIARとの間で、インフレ等を含めた関連する状況を踏まえて5年ごとに見直す取極めとなっている）。また、事務局の運営を支える人材の増強のため、当庁からの職員1名を派遣しその費用等を賄う拠出金を支出。事務局の常勤職員は、7名まで拡大（当庁からの派遣職員1名を含む）。事務局が設置された東京での会議開催は、平成29年の事務局設置以降、3回（このほか、コロナ禍により、東京開催予定をバーチャル開催に変更した事例あり）。 なお、資金支援等に加え、IFIARの代表理事国として、また令和3年4月から令和5年4月までは当庁職員がIFIARの副議長を、令和5年4月以降は同職員がIFIARの議長を務めることにより、IFIARの組織運営や国際的な監査の品質向上に資する取組を推進するとともに、IFIARの活動や、資本市場における監査及び監査品質の重要性を広く国民に周知するための情報発信を更に強化していく。					
事業概要（5行程度以内）	IFIARは、加盟当局数の増大や取組の拡大・深化等を受けて、2017年に常設事務局を東京に開設（2023年7月現在、54か国・地域の監査監督当局が加盟）。我が国に本部である事務局を置く、初の金融関係国際機関であるIFIARに対し、同事務局の円滑な運営に向け、ホスト国として必要な支援を行う（①事務局の運営に伴う費用に関する拠出金、②事務局の運営を支える人材のうち1名を派遣しその費用等を賄う拠出金）。なお、②の派遣人材は、IFIARのミッションに資する取組を行う際の基礎となる会議資料の作成や、WG/TFの活動のサポート等を担っている。 また、我が国で開催する代表理事会等の国際会議を同事務局と共に円滑に運営するため、ホスト国として必要な支援を行う（③会議開催経費）。					
事業概要URL	https://www.fsa.go.jp/ifiar/20161207-1.html					
実施方法	その他					
補助率等	－					

予算額・執行額（単位:百万円）**（インプット）**

		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
予算の状況	当初予算（A）	92	100	101	106	170
	補正予算（B）	－	－	－	－	
					－	
					－	
					－	
					－	
					－	
	前年度から繰越し（C）	－	－	－	－	－
	翌年度へ繰越し（D）	－	－	－	－	
	予備費等（E）	5	－	－	－	
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	97	100	101	106	170
執行額(G)		97	98	100		
執行率（%） =(G)/(F)		100%	98%	99%		
当初予算＋補正予算に対する執行額の割合（%） =(G)/{(A)+(B)}		105%	98%	99%		

令和5・6年度予算内訳（単位:百万円）

歳出予算項・目			令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由（・要望額・予備費）
（項）		金融庁共通費			○令和6年4月に日本において開催予定のIFIAR本会合等について、開催国として運営経費等の支援を行っていくため。（監査監督機関国際フォーラム本会合等開催庁費:+ 73百万円） 「重要政策推進枠:73百万」
	（目）	監査監督機関国際フォーラム拠出金	99	97	
	（目）	監査監督機関国際フォーラム本会合等開催業務庁費	5	73	
	（目）	庁費	1	－	
	（目）	職員旅費	0	－	
		その他	1		
計（A）			106	170	

活動内容① （アクティビティ）	IFIAR事務局の円滑な運営を通じてグローバルな監査品質の向上に貢献するため、監査監督機関国際フォーラム(IFIAR)の活動に必要な資金支援を行う。
↓	

活動目標及び活動実績① （アウトプット）	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
	IFIAR事務局の円滑な運営	本会合・代表理事会・グローバル監査品質ワーキンググループの開催回数	活動実績	件	8	8	8	－	－
			当初見込み	件	8	8	8	8	8

↓ **成果目標①-1の設定理由 （アウトプットからのつながり）**	グローバルに監査品質の向上を実現するためには、各国のメンバーファームに影響力を有するグローバルの経営陣に直接働きかけることが重要。このため、IFIARは、監査品質に係る定量的な調査結果等も踏まえて、グローバルな監査ネットワークの経営陣や担当者と定期的に対話し、高品質な監査の一貫した実施を促している。 こうした目的に資するように必要な準備を行った上で監査法人との会議を定期的に実施すること（短期アウトカム）は、IFIAR事務局の円滑な運営（アウトプット）の主要な要素である。なお、本会合はCEOセッションが開催される場であり、代表理事会はグローバル監査品質ワーキンググループを含むIFIARの作業部会等の活動や方針の報告を受け、必要に応じ指針を示すなどの役割を担う意思決定機関である。

成果目標及び成果実績①-1 （短期アウトカム）	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度
	監査法人との会議回数	本会合CEOセッション・グローバル監査品質ワーキンググループの開催回数	成果実績	回	3	3	3	－
			目標値	回	3	3	3	3
			達成度	%	100	100	100	－

成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績	グローバルな監査品質の向上に資する活動の成果として、6大監査法人ネットワークのCEO等との会議開催回数を成果指標に設定。 （内部資料）
↓ **成果目標①-2の設定理由 （短期アウトカムからのつながり）**	監査法人との会議（短期アウトカム）において、グローバルな監査ネットワークの経営陣や担当者と定期的に対話し、高品質な監査の一貫した実施を促すことは、その数年後の検査結果（長期アウトカム）に影響を与える。

成果目標及び成果実績①-3 （長期アウトカム）	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 6 年度
	グローバルな監査品質の向上	検査指摘率	成果実績	%	34	30	26	
			目標値	%	－	－	－	25
			達成度	%	－	－	－	

成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績	グローバルな監査品質の向上に資する活動の成果として、6大監査法人ネットワークに加盟している監査法人に対して、IFIARメンバー当局が行った検査における検査指摘率を成果指標に設定。なお、2019 年から 2023 年の4 年間で、取組参加当局（IFIARに加盟する法域の約半数）が実施した上場企業に対する個別監査業務の検査で1つ以上の重要な不備の指摘があった比率について、6大監査法人ネットワークに対し、当該指摘率を少なくとも 25%削減することを目標に設定しているが、その推移については2年ごとに公表することとなっているため、ここでは毎年公表される検査指摘率について記載している。 （IFIAR/審査会ウェブサイト）
アウトカム設定についての説明	アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由
	－
	アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由
	－
活動内容② （アクティビティ）	IFIAR事務局の円滑な運営を通じてグローバルな監査品質の向上に貢献するため、事務局の運営を支える人材として当庁からの職員１名を派遣しその費用を支援する。 （活動目標等は①と同じ）
↓	

活動目標及び活動実績②（アウトプット）	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度活動見込	6年度活動見込
	IFIAR事務局の円滑な運営	本会合・代表理事会・グローバル監査品質ワーキンググループの開催回数	活動実績	件	8	8	8	－	－
			当初見込み	件	8	8	8	8	8

↓ 成果目標②-1の設定理由（アウトプットからのつながり）	グローバルに監査品質の向上を実現するためには、各国のメンバーファームに影響力を有するグローバルの経営陣に直接働きかけることが重要。このため、IFIARは、監査品質に係る定量的な調査結果等も踏まえて、グローバルな監査ネットワークの経営陣や担当者と定期的に対話し、高品質な監査の一貫した実施を促している。 こうした目的に資するように必要な準備を行った上で監査法人との会議を定期的に実施すること（短期アウトカム）は、IFIAR事務局の円滑な運営（アウトプット）の主要な要素である。なお、本会合はCEOセッションが開催される場であり、代表理事会はグローバル監査品質ワーキンググループを含むIFIARの作業部会等の活動や方針の報告を受け、必要に応じ指針を示すなどの役割を担う意思決定機関である。

成果目標及び成果実績②-1（短期アウトカム）	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度
	監査法人との会議回数	本会合CEOセッション・グローバル監査品質ワーキンググループの開催回数	成果実績	回	3	3	3	－
			目標値	回	3	3	3	3
			達成度	%	100	100	100	－

成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績	グローバルな監査品質の向上に資する活動の成果として、6大監査法人ネットワークのCEO等とのセッション開催回数を成果指標に設定。 （内部資料）

↓ 成果目標②-2の設定理由（短期アウトカムからのつながり）	監査法人との会議（短期アウトカム）において、グローバルな監査ネットワークの経営陣や担当者と定期的に対話し、高品質な監査の一貫した実施を促すことは、その数年後の検査結果（長期アウトカム）に影響を与える。

成果目標及び成果実績②-3（長期アウトカム）	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 6 年度
	グローバルな監査品質の向上	検査指摘率	成果実績	%	34	30	26	
			目標値	%	－	－	－	25
			達成度	%	－	－	－	

成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績	グローバルな監査品質の向上に資する活動の成果として、6大監査法人ネットワークに加盟している監査法人に対して、IFIARメンバー当局が行った検査における検査指摘率を成果指標に設定。なお、2019 年から 2023 年の4 年間で、取組参加当局（IFIARに加盟する法域の約半数）が実施した上場企業に対する個別監査業務の検査で1つ以上の重要な不備の指摘があった比率について、6大監査法人ネットワークに対し、当該指摘率を少なくとも 25%削減することを目標に設定しているが、その推移については2年ごとに公表することとなっているため、ここでは毎年公表される検査指摘率について記載している。 （IFIAR/審査会ウェブサイト）

アウトカム設定についての説明	
	アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由
	－
	アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由
	－

活動内容③（アクティビティ）	国内への知見共有のため、IFIAR事務局への派遣職員を含む金融庁・審査会職員がIFIARの活動に深く関与していく。その際、IFIARの議論の場の提供を分担し活動に貢献するため、代表理事会等の会議開催に必要な費用を支援する。
↓	

活動目標及び活動実績③（アウトプット）	活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度活動見込	6年度活動見込
	日本でのIFIAR関連国際会議の開催	代表理事会等の国際会議が日本で開催された回数 ※令和2・3年度はコロナのためすべてバーチャル開催。	活動実績	回	－	－	1	1	－
			当初見込み	回	1	1	1	1	1

↓ 成果目標③-1の設定理由（アウトプットからのつながり）	日本でIFIAR関連国際会議をホストすることにより、IFIAR事務局ホスト国・代表理事国としてのIFIARメンバー当局からの期待に応え、信頼関係を構築し、国内外でより深い議論を行い知見を得ることで、国内への共有につながる。

成果目標及び成果実績③-1（短期アウトカム）	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 5 年度
	監査品質の向上に関する国際的な議論に積極的に参画	本会合・代表理事会への金融庁・審査会職員の参加回数	成果実績	回	5	6	6	－
			目標値	回	5	6	6	6
			達成度	%	100	100	100	－

成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績	IFIARの意思決定にも関係する本会合・代表理事会への金融庁・審査会職員の参加回数を成果指標に設定。 （内部資料）
↓ 成果目標③-2の設定理由（短期アウトカムからのつながり）	監査品質の向上に関する国際的な議論に積極的に参画するなどして貢献し、IFIARメンバー当局からの信頼を得ることで、国内に共有する情報の充実にもつながる。

成果目標及び成果実績③-3（長期アウトカム）	成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 6 年度
	IFIARの取組に関する国内への知見共有	プレスリリース、日本IFIARネットワーク会議、各種寄稿等の数	成果実績	回	5	8	5	－
			目標値	回	5	5	5	5
			達成度	%	100	160	100	－

成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名（出典）/定性的なアウトカムに関する成果実績	金融庁ウェブサイト、内部資料

アウトカム設定についての説明	アクティビティ③について定性的なアウトカムを設定している理由
	－
	アクティビティ③についてアウトカムが複数設定できない理由
	－

アクティビティから長期アウトカムについて6つ以上記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載	チェック	

事業に関連するKPIが定められている閣議決定等	
名称	
URL	
該当箇所	

事業所管部局による点検・改善

点検結果	○ IFIAR事務局のホスト国として、円滑な運営に向けた支援のための拠出金を適切に支出している。 ○ 我が国の国際的なプレゼンスを高め、東京の国際金融センターとしての地位を向上させるため、IFIAR代表理事会への参加（令和4年度：5回開催中5回）を通じて、監査品質の維持・向上に向けた議論に積極的に貢献している。 ○ 代表理事会及び関連会合のホスト回数について、令和4年度は、予定通り1回となった。 ○ 費用の支出や国際会議への参加に加え、令和3年4月から令和5年4月まではIFIAR副議長を当庁職員が務めることにより、国際的な議論を積極的に主導し、日本のプレゼンスを高めるとともに国際協調に貢献した。また、令和5年4月以降はIFIAR議長を当庁職員が務めることになったことから、更に日本のプレゼンスを高めるとともに国際協調に貢献できると思われる。	**目標年度における効果測定に関する評価（令和6年度実施）**
改善の方向性	○ 我が国に拠点を置くIFIARの議長国として、引き続きIFIARの組織運営を積極的に主導することにより、我が国の国際的なプレゼンスを高めるとともに、グローバルな監査品質の向上に関する議論や監査監督当局の国際的な協力関係の構築・充実に貢献する。 ○ 代表理事会のメンバーとして、本会合・代表理事会等の国際会議への参加を通じ、IFIARの運営に関する議論に積極的に関与するとともに、事務局の円滑な運営のため、ホスト国として必要な支援を引き続き行っていく。 ○ IFIARの活動を広く国民に周知するため、ウェブサイトへの情報掲載や、国内における監査のステークホルダーからなる「日本IFIARネットワーク」等を活用し、監査品質の向上に向けたIFIARにおける議論を積極的に国内に発信する。	

外部有識者の所見

点検対象外

行政事業レビュー推進チームの所見に至る過程及び所見

現状通り	○関係者に対する情報発信について検討していくこと。 ○引き続き、拠出した資金が有効に活用されるよう、資金使途を確認すること。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

現状通り	○本事業の目的を実現するために、IFIARとの協力と貢献に関する合意（ホスト合意）に基づき、IFIAR事務局のホスト国として、引き続き必要な資金支援を行うとともに、IFIARの代表理事国及び議長国として、監査品質の向上に関する国際的な議論において主導的な役割を果たしていく。 ○本経費については、IFIARの会計報告を通して資金使途の適切性及び有効性を確認し、適切な場合にはIFIARにより効率的かつ効果的な組織運営を求めていくこととしつつ、令和6年度においては、令和6年4月に日本で開催予定のIFIAR本会合等の開催に必要な経費の一部を令和6年度予算の要望額として要求するため、前年比73百万円の増額となる予算要求を行っていく。 ○関係者に対する情報発信については、当庁ウェブサイトへの情報掲載、国内における監査のステークホルダーからなる日本IFIARネットワークの活用、寄稿・講演、日本での対面会合の開催の機会を活用した意見交換等を通じ、積極的に行っていく。

過去に受けた指摘事項と対応状況	**公開プロセス・秋の年次公開検証（秋のレビュー）における取りまとめ**
	上記への対応状況
	その他の指摘事項
	上記への対応状況

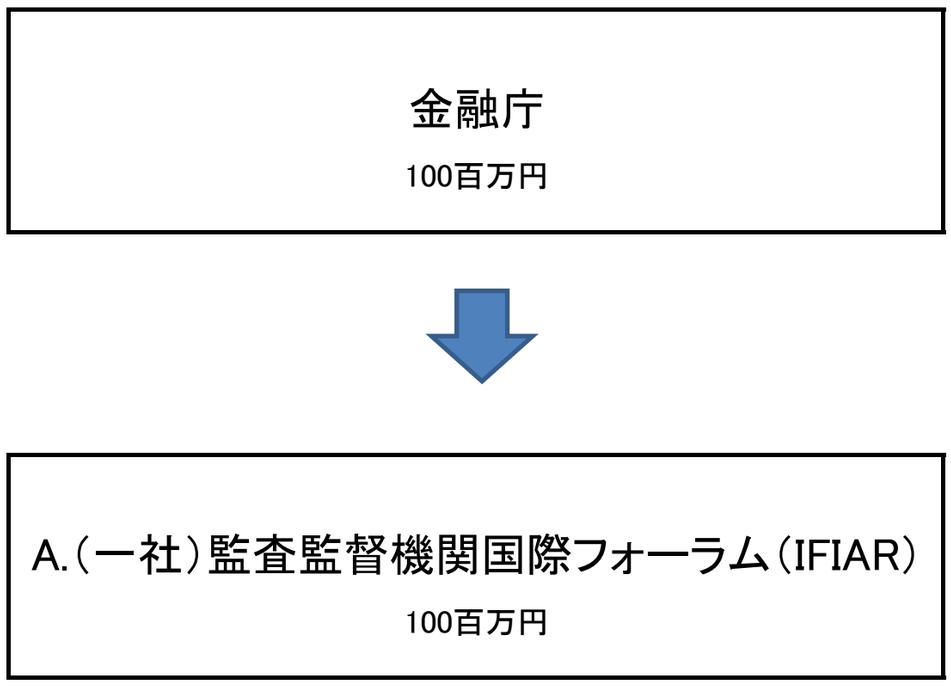
備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成23年度				
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度	新28-0004			
平成28年度	20			
平成29年度	0013			
平成30年度	20			
令和元年度	金融庁	-	0021	
令和2年度	金融庁		0021	
令和3年度	2021	金融	20	0025
令和4年度	2022	金融	21	0026

※令和4年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）
（単位：百万円）



費目・使途
（「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載）

A.			B.		
費　目	使　途	金　額（百万円）	費　目	使　途	金　額（百万円）
事務運営費	監査監督機関国際フォーラム（IFIAR）の事務運営	100			
計		100	計		

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載　チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支　出　先	法　人　番　号	業　務　概　要	支　出　額（百万円）	契約方式等	入札者数（応募者数）	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策（支出額10億円以上）
1	一般社団法人監査監督機関国際フォーラム	6010005026240	グローバルな監査品質の向上等	100	その他	－	－	－

支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載　チェック